

國學院大學學術情報リポジトリ

小学校で英語を教えるために(雑感)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山西, 治男 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001191

小学校で英語を教えるために（雑感）

山西 治男

Yamanishi Haruo

▼どのくらいの英語力が必要か？

「小学校英語のねらい」は、中学校英語の前倒しでも、英語のスキルの習得でもないという。「ねらい」は、外国語（＝英語）による「コミュニケーション能力の素地を養う」こと。この「ねらい」を実現するためには、当然ながら、小学校で教える先生も、教えるなりの英語の「コミュニケーション能力の素地」がすでに養われていなくてはならないであろう。

では、小学校での英語の場合、具体的にどのくらいの「英語力」が必要なのか？ 英語検定（英検）では、何級であろうか？ 小学校という場だけではなく、広く子どもに英語を教える「児童英語教師」には、「英検2級から1級レベル」が必要だというのが、一つの目安になるだろう。実際に子どもに英語を教えている経験者は、以下のように指摘している。

「児童英語教師」に向いている方は、子ども好きな方、子どもを育てたことのある方、体を動かすことが好きで、ゲームや歌、お芝居などに興味があり、笑顔を絶やさず大きな声が出せる方でしょう。

また、英語圏の生活習慣や文化に通じている方がよく、もし不安に感じる方は、勉強をする必要があります。

さらに、できれば児童心理学を学んだことのある方が望ましいと思います。英語力は英検2級くらいあれば十分に教えていけますが、動物の名前や車の種類、遊び道具の名前など、子どもは思わぬ質問をしてくるので、上手に対処できるよう、ピクチャー・ディクショナリーなどは常に手元に置いておきましょう。（下線 山西）

青山静子『子育て主婦の英語勉強法』（中教出版、2002年）pp.146-7

英検がすべてとは言えないし、TOEICやTOEFL、国連英検などさまざまな英語の検定試験があるが、小学校で英語を教えるならば、まずは「英検2級」の実力が目安となるだろう。

蛇足ながら、付け加えれば、ここで言う英語力は、「以下の過去形を過去完了形にきなさい」とか、「空欄にふさわしい語を下の記号の中から1つ選びなさい」式の英語の問題が解ける英語力ではない。ある状況に置かれたときに、相手の発言を聞き取り、その状況にふさわしい英語表現を発話し、書いたりすることができる「コミュニケーション能力」としての英語力である。例

えば、センター試験のような、記号で答えを選ぶことは、「コミュニケーション能力」と必ずしもイコールではないことを忘れないでほしい。英検は3級から面接試験があるので、その意味では、TOEICなどとは違い、ペーパー試験では測れない、人と人との間の実際の「英語コミュニケーション能力」が測ることができる。その意味でも、小学校で英語を教えるときに必要な英語力として、「英検2級」が目安となるであろう。

▽ 英語の語彙、ボキャブラリーを増やそう！

先の引用にもあるように、「動物の名前や車の種類、遊び道具の名前など、子どもは思わぬ質問をして」くるので、それに適切な対応ができるように、身の回りのものを含め、子どもが日常的に目に触れ、使うものなどを英語で言えるようにしておくことが、大切である。先の英検の内容と矛盾するようであるが、英検2級ともなれば、「社会経済」のいわば時事的な話題を理解するための語彙がかなり必要であるが、「小学校英語」の現場に必要なのは、こうした、いわば高尚な、抽象度の高い語彙に加えて、むしろ具体的な、身の回りの日常生活関連の英語である。

さらには、学校生活と関連する言葉や用語なども、普段から積極的に習得しておくことが必要であろう。例えば、国語、算数、理科、社会などの教科名や、分度器、三角定規、色エンピツなどの勉強道具、運動場やプール、体操着といった施設関連の英単語を、学んでおかなければならない。

大学生のいまだからこそ、まずは英語の語彙の習得に、ボキャブラリー増強に努めるべきだと思う。大学生のいまだからこそ、地道な、毎日の努力、積み重ねが必要である。というのも、小学校の先生は多忙を極めるからである。「小学校英語」についての以下の文章を読むうちに、小学校の先生のたいへんさを改めて痛感した。

・・・小学校教員はすべての教科を担当しており、休み時間もほとんど子どもたちと一緒に活動している。授業の準備は放課後か帰宅後に行くしかない。教材研究はその先生が得意としている教科においては、より詳しく教材研究することができるが、すべての教科がそうできるわけではない。

高学年なら八つの各教科に加え、道徳、学活、総合的な学習時間（さらに三～四領域の単元を設定するのが一般的）を含め、全部で十三。それに英語教育（外国語活動）が加わると十四にもなるのだ。

高橋賢祐「小学校英語」導入における三つの問題点（北海道名寄南小学校教諭）『群青』（2010年1月号 p.23）

小学校の現場に入ってしまうと、少なからずこのような多忙な毎日が待っているだろう。そうした日々の中で英語の語彙を増やす努力や英会話力の養成もなかなか難しいだろう。大学生のいまだからこそ、英語の語彙増強、ボキャブラリー増強に励むべきである。同時に「英検2級」のためには、一つでも多くの英語表現、日常会話を習得したほうがよい。加えて言えば、その際、

英単語帳、英語ノートの作成をお勧めしたい。自分なりの「表現帳」を持つことは、自分なりゆえに楽しいし、知らぬ間に単語を習得できて有益である。絵やイラストが描ける人は、是非自分なりの楽しい英単語図絵帳や英語表現帳を作ってもらいたい。

▽英語の絵本を読もう！

英単語の語彙力増強や英語表現の習得のためにも、英語の絵本を読んでもみることをお勧めしたい。これまで一度も英語の絵本を読んだことがない人は、是非ともこの機会に英語の絵本の世界に挑戦してもらいたい。

例えば、幼い頃に読んだ、あるいは読んでもらった、『はらぺこあおむし』や『スイミー』などを原作の英語で読んでみたらどうだろう。日本語訳があれば、英語と日本語訳を比較検討してみるのも勉強になる。「はらぺこ」はhungryで、「あおむし」はcaterpillarだったのかという発見だけでも面白いはずである。また、「それなら、ボクが目になろう」は、I'll be the eye!だと分かれば、willの使い方や、目がeyesではなく、小魚たちが作る「大きな魚のあの一つの目」の意味で、the eyeになる理由も理解できるだろう。こうした思わぬ発見がたくさんあるはずである。

難しい英語の本に挑戦するのもいいが、まずは英語の絵本をたくさん読んでみることをお勧めしたい。有名な絵本であれば、DVDがあったり、また多くの絵本にCDなどの朗読用の教材もあるので、こうしたものも是非とも活用したいところである。そして、絵本の英語・英文を最初から最後まで暗記し、暗唱できるくらいになれば、理想的である。図書館などを利用して、大いに英語の絵本を味わってもらいたい。

また、英語の絵本にもその種のものが多数あるが、子どもの歌や、マザーグースあるいはナーサリー・ライムと呼ばれる英語の遊び歌、童謡、子守唄にも親しんでほしい。覚えて楽しいし、英語の発音を始め、いろいろな意味で勉強になる。英米文化の基礎をなすマザーグースについては、平野敬一氏の『マザーグースの唄』（中公新書、1972年）は必読の書である。未読の人は是非とも読んでほしい。

以上、「小学校で英語」を教えるために、いまできること、学ぶことについて、思いついたことを書いてきた。英語のフォニックスや英文法の基礎についてなど、その他の重要な事項についても書くべきことはあるが、別の機会にしたい。

最後に、「小学校での英語」を教えるためだけでなく、英語の学習全般に役に立つ図書を以下に挙げておくので、参考にしてほしい。

【推薦図書】

- ・山岸勝榮 『単語博士・・・いちばん知りたい暮らしの英語』（小学館、2003年）
- ・『できる人の英単語帳&ノート術』（アスコム、2005年）
- ・高橋茅香子 『英語となかよくなれる本』（文春文庫、2005年）

（やまにしはるお・國學院大學人間開発学部初等教育学科准教授）